

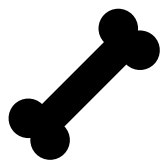
リウマチケアナースお便り

リウマチケアナースからのニュースレター

— テーマ —

- 1 リウマチと骨
- 2 学会参加報告

1 リウマチと骨



「関節だけ」ではありません

関節リウマチ（RA）は、関節の炎症だけでなく、骨が弱くなりやすい病気でもあります。

リウマチによる炎症や、ステロイド治療、運動量の低下などが重なることで、骨粗鬆症が進行しやすくなります。

特に背骨や太ももの付け根の骨折は、生活の質（QOL）を大きく低下させる原因になります。

骨折は「転びやすくなる」「歩けなくなる」だけでなく、生活の質（QOL）にも大きく影響します。特に背骨の圧迫骨折は、身長が縮む、腰が曲がる、慢性的な痛みにつながる可能性があります。

そのため、リウマチ診療では「関節の炎症を抑えること」と同時に、「骨を守ること」もとても大切です。骨粗鬆症は、骨折するまで自覚症状がないことも少なくありません。そのため、定期的な骨密度検査、転倒予防、適切な治療継続がとても重要です。

当院での取り組み

当院では、骨密度検査（DXA）や血液検査を行いながら、患者さん一人ひとりに合わせた骨粗鬆症治療を行っています。

また、看護師や骨粗鬆症マネージャーが、以下のようなサポートを行っています。

当院では骨粗鬆症マネージャの資格を持つスタッフが以下の様にサポートしています

- 骨粗鬆症についての説明
- 注射治療や内服治療の継続支援
- 転倒予防のアドバイス
- 日常生活での注意点の説明
- 運動や栄養についての相談

「骨粗鬆症の薬は長く続けること」が大切ですが、不安や困りごとがあると継続が難しくなることもあります。気になることがあれば、いつでもスタッフへご相談ください。



2 学会参加報告

2026年4月にチェコ・プラハで開催された国際骨粗鬆症学会（WCO-IOF-ESCEO）に参加し、世界の骨粗鬆症診療や治療継続支援について学びを深めました。

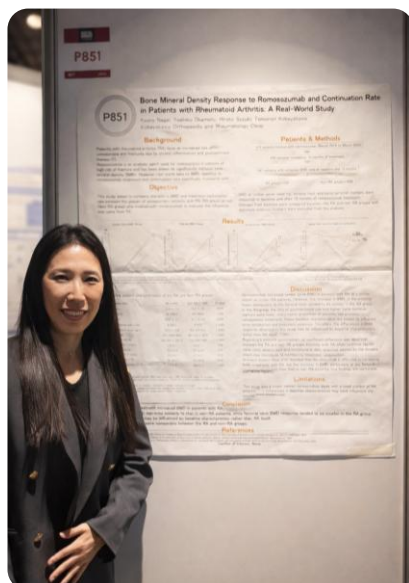
また、当院の **小早川院長がこれまで発表してきた骨粗鬆症研究に関する論文も、学会内で多く引用されており、** 当院の診療や研究が、世界の骨粗鬆症診療の場でも共有されていることを実感しました。

今回の発表では、関節リウマチ患者さんにおける骨粗鬆症治療についてポスター発表を行いました。リウマチ患者さんでは、炎症やステロイド治療などの影響により骨が弱くなりやすいことが知られています。当院の研究では、骨粗鬆症治療薬「ロモズマブ（イベニティ）」により、リウマチ患者さんでも腰椎の骨密度改善がみられました。また治療継続率も良好であったことを報告しました。

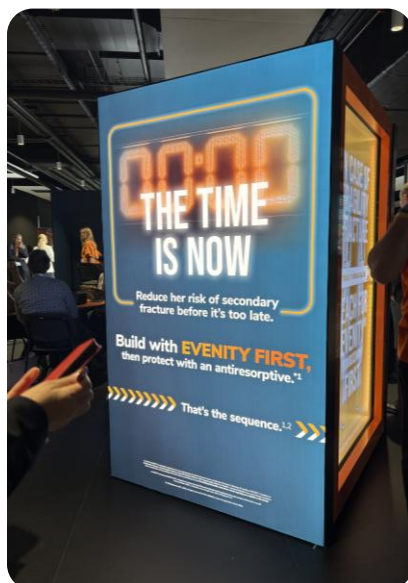
学会では、世界中から「骨折を繰り返さないための早期治療」や「治療継続支援」に関する多くの発表がありました。

特に印象的だったのは、「**骨折してからでは遅い**」というメッセージです。骨粗鬆症は自覚症状が少ない病気ですが、骨折をきっかけに生活が大きく変わってしまうことがあります。そのため、“骨折を防ぐために今から骨を守ること”や“治療を継続すること”の重要性を改めて感じました。

今回学んだ内容を、今後も患者さん一人ひとりに合わせた診療やチーム医療に活かしてまいります。



看護師永井 ポスター発表



「骨折してからでは遅い。
今すぐ強力な治療を始めよう」
学会会場でのメッセージ展示



国際学会ポスター会場の様子



2026 IOF 学会会場